

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590100725 | | |
| 法人名 | 株式会社 E-gao | | |
| 事業所名 | グループホーム けやき | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市佐土原町下田島江川崎11413-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年8月12日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年11月4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&dxno505d=4590100725-00&Pratfd=45&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成27年9月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりや日常的な交流・協力が得られる住宅地に立地しており、付近の住民の方々の理解もあるため、安心して生活を送ることができる環境です。近隣の方がボランティアで歌を歌いに来てくださったり、七夕飾りを一緒につくってくださるなど、積極的な交流が続いています。また、近隣の方がお散歩ついでに当事業所に立ち寄り、入居者様と談笑される光景もよく見られます。早朝には鶯の音が聞こえ、夜は美しい夜空、様々な表情をした月を楽しむことのできるグループホームになっています。公平、公正で透明性のある運営により、入居者様の人格を尊重し、安心してゆったりとした穏やかな暮らしを提供します。家庭的な環境の中で、笑顔で日常生活の支援を行います。食事面では、旬の食材を使ったバランスの良い食事を専門の調理師により提供しております。入居者様の能力を活かして、共同生活の中で、楽しみや生きがいを見つけていただける支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の閑静な場所にあり、代表者、管理者を中心に家庭的な雰囲気である。運営においては自治会に加入し、地域とのつながりを重視し、地域の行事にも積極的に参加し、意見交換も活発に行っている。また、太陽光の設置、災害時の備蓄も確保されており、避難場所としての役割を担うなど、地域貢献につなげている。管理者及び職員間の関係も良く、職員にとって働きやすい職場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家庭的な雰囲気の中で利用者様とコミュニケーションをはかり絆を深めていくことを大きな理念に掲げ、ホールに掲示し、日常的に意識するように努めている。 | 開設した当初の理念を見直し、現状に即した言葉に作り変えている。常に職員会議では理念について話し合い、具体化し、日々のケアに生かせるよう取り組んでいる。また、ホーム内に掲示し、唱和することで、職員の意識を高める努力を行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 回覧板や運営推進会議などで地域の情報を収集し、地域活動に参加している。 | 自治会に加入し、地域の行事への参加、ボランティアの受け入れなどを積極的に行い、地域交流を深めている。また、「カフェけやき」と称し、コーヒーやお茶を準備し、地域の憩いの場として提供することで、利用者が地域とつながる工夫をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の際などを活用し、情報提供を行い、意見交換を行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長、地域包括支援センター職員、ご家族に参加してもらい、自分達では思いつかない提案をいただき、実践できそうなものは取り入れ、向上に努めている。 | 自治会長や家族からホームの運営や要望などの意見が積極的に出されており、双方向的な会議となるよう配慮している。また、自治会長や区長からは日常的に話を持てる環境づくりがなされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議等で、情報交換を行っている。 | ホームの実情やケアに関して地域包括支援センターとの情報交換は行われているが、市の担当者と直接情報交換は行っていない。 | 介護保険制度の話や運用上の不明点など、気軽に情報交換ができるよう市との関係づくりを期待したい。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていない。研修等で学び、ケアに取り組んでいる。 | 玄関の施錠は行っておらず、徘徊傾向にある利用者の意図を把握し、散歩に行くなどの対応をしている。また、職員は研修会を通じて身体拘束の意義を理解し、言葉や身体拘束のないケアの実践を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員間で高齢者虐待に関する事例を共有している。また、職員間で相互に確認しあうことで虐待の徹底防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人の方が毎月1回来所する。その他、研修等に参加している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧な説明を心がけるとともに、疑問点についてはさらなる説明を加えている。その上で納得していただいた上で同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会の際などを利用し、常に意見交換している。御家族が来所して下さる際に積極的に話している。 | 家族の来訪が多く、来訪時に意見や要望などを気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりがなされている。また、運営推進会議では活発に意見が出され、その意見を運営に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議にて意見交換をしている。積極的に意見を出している。 | 月1回の職員会議で、職員から出される運営や利用者の状況などの意見や提案を大切に受け入れている。また、管理者と職員のコミュニケーションも図れており、日頃から、思い思いの意見を自由に語り合える職場環境づくりに努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 希望休や労働時間には柔軟に対応し、残業をなくすなど、家庭と仕事のバランスが取れるように配慮している。経験や能力に応じた給与体系を整備している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者が頻りに施設を訪れ、職員の評価につなげるとともに、職員に対する声かけも行っている。また、職員には事業所内での研修に加え、外部の研修等への参加も促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は、各種研修に参加するとともに同業者とのネットワークづくりに努めている。相互に施設を訪問し、意見交換を行うことで、自らの施設のサービス向上につなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントを活用し、確認している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所を検討されている段階で、実際に施設の見学にお越し頂いている。個々人の状況を勘案し、入所後の生活をイメージしながら、ご家族の不安や心配に耳を傾け、一緒に支援のあり方を考えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に、入居を予定されているご本人とも家族も含めて面談をすることで、必要な支援を見極めている。また、他の利用者への影響や他の利用者の感情にも気を配るよう心がけている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自立支援に向けてお互い尊敬の意を持って接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に安心していただけるように、月1回新聞を発行している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者様のご家族には通院への付き添いや面会をお願いするようにしている。入居者様とご家族の了解の下で、親戚・友人との面会も積極的に支援している。 | 家族の支援の下、通院やお墓参り、買い物など、個々の状況にあわせ、なじみの場所への外出支援など、一人ひとりの希望を尊重し行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 他の利用者様との交流が図れるように、職員が中に入って潤滑油となるように心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | いつでも家族への情報提供を心がけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の会話の中で気持ちを汲み取るようにしている。 | 日々の利用者の表情や言動の中から、意向の把握に努めている。また、利用者の情報を本人や家族から聞き取り、思いや意向に沿えるように取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常生活の中でたくさんのヒントを見出すようにしている。また、それらを職員間で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活での行動、活動を見逃さないようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員会議、担当者会議を開き、意見を聞き、よりよいケアプランに反映させている。 | 職員会議で利用者の状態の確認をし、職員から日々の状況を聞き取り、介護計画を作成している。また、職員の気づきや利用者の状況を具体的に記録できるよう工夫している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 細かいことも見逃さず、申し送りノートを活用し、職員全員が日々向上に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 推進会議などで地域の方との情報交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設周辺の散歩コースを考え、入居者様の要望に応じて散歩に出かけている。また、地域のスーパーや日用品店も把握し、買い物支援に役立っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | つねに家族に近況を報告して、安心してもらうように努めている。 | かかりつけ医は本人・家族の希望の医療機関となっている。協力医療機関との連携も充実し、週2回の往診や歯科往診もあり、急変時でもすぐに対応できるような関係を構築している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々のバイタルチェック等、食事摂取、排便コントロールなどを報告している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | かかりつけ医から情報をもらい、退院後の注意点到に留意している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事前指定書の確認を行うことにより、利用者、ご家族の意向を尊重するようにしている。 | これまでに看取りは行っていないが、ホームでは、看取りに関する書類を整備し、指針を明確にしている。入居時に、看取りの説明を行っているが、終末期の対応についてはその時々状況に沿って、本人や家族と話し合い、協力医療機関と連携した対応を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 月1回、緊急の訓練、避難訓練、マニュアルの作成を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月1回の訓練に加え、推進会議で関係者に災害時の協力を要請している。 | 定期的な防災訓練を行い、対応できるよう避難方法を身につけている。警備会社と連携し、地域へも連絡が取れる体制を整えている。また、ホームが地域の避難場所になる可能性もあるため、自治会長を中心に協力体制を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は、利用者に対して敬意、尊敬をもって対応している。また、日々の会話などから得られた利用者個人の情報を漏洩しないように職員の教育を行っている。 | 利用者に対して、職員は一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない、優しい言葉かけや対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者本人の意向に耳を傾け、できるだけ尊重するように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活リズムに合わせ、声かけ、支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 容姿は生活意欲につながるので、ポジティブな声かけ支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節に合わせた食事の提供をしている。 | 職員も同じ食卓を囲み、同じ食事を楽しみながら食事をとっている。また、利用者の嗜好や季節の物をメニューに取り入れ、柔軟に対応している。利用者の力量に応じて、調理の下処理や後片付けを手伝ってもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量の記録をし、こまめな水分補給を促している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の声かけ、誘導、介助、定期歯科健診を促している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握している。誘導、見守りが必要である入居者様には声かけをしながら、自立に向けての介助を行っている。 | 排せつチェック表を活用したり、排せつサインを見逃さないようにして、昼間はトイレで排せつできるよう、時間誘導などの支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘である期間など、個々人の状況をしっかりと把握できるようにしている。水分補給をしっかりと行い、食事の工夫も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日の利用者様には事前に声かけをし、ご本人に入浴されるかどうかを確認しながら進めている。入浴を楽しんでいただくよう、配慮している。 | 最低でも週3回の入浴と入浴希望日の聞き取りとともに、希望時間にあわせ入浴できるように配慮している。入浴を拒む場合は時間をずらして声かけをするなど、対応を工夫している。また、浴槽のお湯は利用者ごとに入れ替え、衛生管理に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの利用者様の状況を職員間で話し合い、そのときの体調等に合わせて居室の室温調節等をこまめに行いながら支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は薬の効用に関して、医療機関から渡される説明書にしっかりと目を通している。服用前には確認、確認、再確認しながら服用して頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活に合った支援を行っている。自分から積極的に台所を手伝ってくださる方、庭の手入れをしてくださる方など、楽しく1日が過ごせるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物に行って、「あれを買いたい、これを買いたい」と利用者様が楽しんで買い物されるよう支援している。入居者様の希望に応じて、施設の周りを散歩したりしている。 | 地域の行事に参加したり、買い物をしたり、外出ができるように家族への働きかけも行い、日常的な外出ができるよう積極的に支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は、一人ひとりの希望に応じて所持していただいたり、買い物も見守りの中で自由にさせていただき、自分でお金を使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や友人といつでも電話などで連絡が取れるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 館内はいつも清潔に、利用者様が安心して生活できるよう、清掃にも力を入れている。トイレなども広く設けており、心地よく生活して頂きたい。 | 居間は利用者の往来をさえぎらない広さであり、採光も良く、利用者が居心地良くすごせるように工夫をしている。ウッドデッキの設置や中庭には畑もあり、木のぬくもりが利用者に安心感を与えるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下(外の景色が見えるところ)などにソファを置き、そこで過ごしていただいたり、テラスを設け、そこには植木や花を置くことで利用者様に楽しんでいただけるように心がけている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者様に自宅と同様に過ごして頂けるよう、馴染みの物品等を自由に持ってきていただき、心地よく生活して頂けるよう支援している。 | 利用者の使い慣れた整理ダンス、家族の写真、テレビなどが持ちこまれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全館バリアフリーで、各居室には洗面台・鏡が整備されている。また、車椅子対応の手摺、歩行器、杖、踏み台便座など、個別の必要に応じた器具が準備されている。 | | |